

春の交通安全

県民総ぐるみ運動

運動の重点

子供と高齢者の安全な通行の確保と 高齢運転者の交通事故防止

- ドライバーは、子供やお年寄りを見かけたら、一時停止や徐行など思いやり運転を心がけましょう。
- 学校や地域ぐるみで通園・通学時の交通安全指導や保護・誘導活動を促進しましょう。
- 高齢者は年齢による能力の変化を認識し、慎重な運転、安全な歩行を心がけましょう。また、車の運転に不安を感じたら、運転免許の自主返納を検討しましょう。
- 70歳以上の運転者は車に高齢運転者標識(高齢者マーク)を表示しましょう。
- 夜間の外出には、明るく目立つ色の服装を心がけ、反射材やLEDライト等を有効に活用しましょう。

自転車の安全利用の推進

- 歩行者も運転者も交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践に努めましょう。
- スマートフォン等を使用しながらの歩行、運転はやめましょう。
- 夜間に車を運転する際は、前照灯をこまめに切り替え、ハイビームを効果的に活用しましょう。

自転車安全利用五則

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- 5 子供はヘルメットを着用

全ての座席のシートベルトと チャイルドシートの正しい着用の徹底



平成29年中、県内の四輪乗車中の死者は19人。このうち、10人がシートベルトを着用していませんでした。

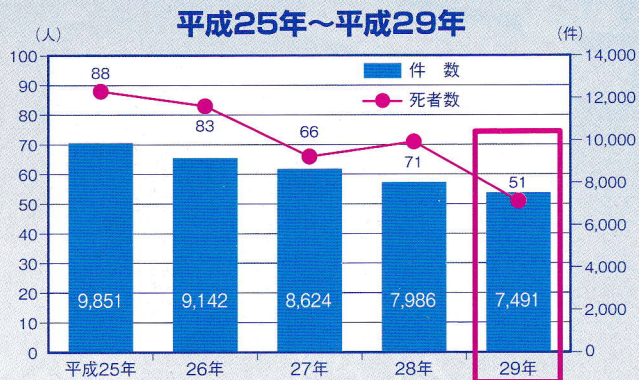
この10人中全員が、シートベルトを着用していれば、生命が助かったものと思われます。

●シートベルト着用状況調査結果

対象	全国平均	宮城県	順位
運転席	98.6%	99.2%	10位
助手席	95.2%	97.8%	2位
後部席	36.4%	27.8%	40位

※平成29年10月1日～10日
一般道での調査
※警察庁・日本自動車連盟(JAF)
合同調査

過去5年間の 宮城県内交通事故発生状況



交通死亡事故の特徴(平成29年中)

1 高齢者の死者が全体の6割以上を占める

65歳以上の死者は33人で、全事故死者数の6割以上(64.7%)を占めました。

2 高齢者運転者による死亡事故が3割以上

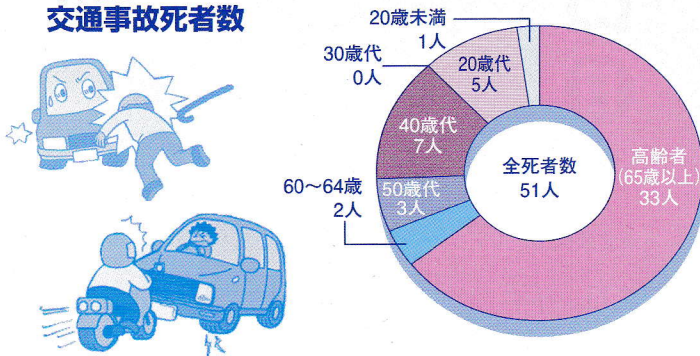
全事故に対し高齢者運転者による死亡事故は3割以上(33.3%)を占めました。

類型別では、路外逸脱等の単独事故が9件と最も多く、正面衝突や出会い頭による事故も発生しています。

3 歩行者事故が11月以降急増

歩行者が死亡した事故は19件20人で、前年比+6件+6人と減少しましたが、11月以降に9件10人と連続的に発生しました。

年代別 交通事故死者数



飲酒運転の根絶

酒飲み運転追放3ない運動

運転するときは酒を飲まない
酒を飲んだら運転しない
運転者には酒を出さない

ハンドルキーパー運動を
広めて、飲酒運転根絶を

